

単元「高校生活を考える」の展開

——現代国語一年の作文指導——

小 川 満 江

一 はじめに

書くことは、国語学習の中で重い位置を占めるものである。私どもは、量の多少はあれ、書く作業を授業の中にとびたび持ち込んでいく。書くことそのものを目標にしない場合、生徒が書いたものの扱いは、発表させたり、提出させこちらで添削、批評して返したりすることが常である。文章を書くことを中心にした展開では、そういった形で終るのでなくもう一工夫したい。五十四年度一年の現代国語の授業では、単元「高校生活を考える」を展開する中でそのことを試みた。

なお、一年生の現代国語の授業については、年間を通して、N教論と協力しあって展開することを約束した。協力しあうと言っても、大先輩であるN教論には教えをいただいたことの方が多い。一年は九クラスあり、そのうちN教論が三クラス、私が二クラス受け持った。以下の実践報告は、私が受け持った一年四組(45名)と一年九組(44名)をもとにしたものである。

二 教材及び目標

使用している教科書は、筑摩書房「現代国語1二訂版」である。

この教科書は、二評論、二小説といったように、ジャンル別に十二の単元に分れている。私どもはこの十二単元に含まれている各教材を組み直して、テーマ別に六つの単元にまとめた。1青春を生きたる 2 出会いの人生 3 高校生活について考える 4 ヒロシマの文字 5 論説文の研究 6 民衆が創る歴史 である。3 「高校生活について考える」が、教科書単元五「文章を書く」を中心とした作文の単元である。

本単元の目標を次のように設定した。

- (1) 身近な問題を取りあげて文章を書く。
- (2) 互いの作文を読むことによって、書くことの注意点を考える。
- (3) 他人にわからせる文章を書く工夫をする。

三 経過と方法

四組は十月六日から、九組は十月一日からこの単元に入り、ともに十月十五日に終えた。この単元に要した時間数は四組が四時間と二分の一時間、九組が五時間と二分の一時間である。作文メモ作成に二分の一時間、作文を書くのに一時間、グループでの相互批評に二時間と三時間、批評してもらった作文を清書するのに一時間かけた。方法については生徒に配布したプリントで示す。

資料1 学習の進め方

I 書く準備

- 1 学習の進め方と作文メモを切り離す。
- 2 メモの作品番号欄に各自の生徒番号の下二けたを算用数字で記入する。他は記入しないこと。
- 3 メモ用紙を生徒番号01の人に提出する。
- 4 生徒番号を01の人は任意に一枚ずつ配る。
- 5 配られた作品番号が各自の作品番号である。

II 書く

- 1 メモ用紙に生徒番号・氏名を記入する。
- 2 作文メモの作成
 - ア 高校生活の中の問題点を一つ選ぶ。(△おぼえ▽に思いつくままあげる。それから一つを決める。)
 - 例 クラブと勉強の両立、H・Rのあり方・先生について、校内総体の種目は多すぎる、など
- イ (1)・(2)・(3)・(4)にそれぞれ簡潔に記入する。
- 3 作文を書く
- ア 作文用紙に作品番号を書く。
- イ 題を忘れないこと。
- ウ 原稿用紙の使い方にしたがって書く。
- 4 作文メモと作文用紙をいっしょに提出する。

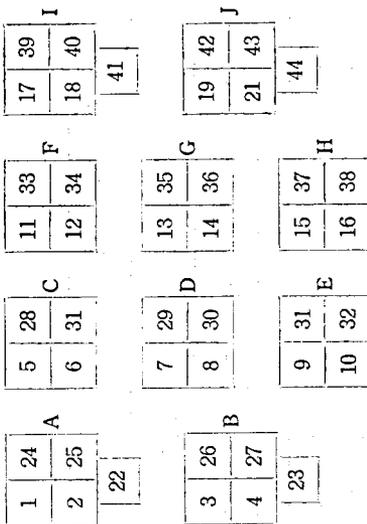
資料2 作文メモ

	作品番号		
△おぼえ▽	生徒 番号 1	氏名	
(1)	(2)	(3)	(4)
題(主題がわかるような題をつけること。)	とりあげる事実	どういう問題があるか	問題に対する意見

I 作文を検討するグループを作る

- 1 配られた紙に生徒番号の下二けたをアラビア数字(算用数字)で書く。
- 2 四つ折りにして、男女それぞれ生徒番号の一番若い人のところへ紙を提出する。
- 3 男女とも、生徒番号の一番若い人は、出された紙を、男子は男子、女子は女子に配る。
- 4 配られた紙が着席番号である。
- 5 次のように着席すること

教壇



授業の始まる前に作っておく。

II 作文の検討

- 1 各グループで責任者(グループの話しあいの進行係)と記録者(記録用紙を作成・提出)を決める。
- 2 作文を検討する基準の項目を決める。(三つ以上六つ以下)
- 3 配られた作文をまわして読み、基準を中心にして検討。記録用紙に各自の批評感想を記入する。
- 4 作文がひとまわりしたら、それぞれについて話し合い、グループとしての批評・感想をまとめ、それぞれの「本文で気付いた点」「検討の観点」「全体の感想」の欄に記入。
- 5 記録者は記録用紙を記入、提出する。
- 6 作文を返却する。

グループにだけ聞こえる声で。

記録用紙Ⅳはめいめで書く。

資料 5 グループ学習記録用紙

I グループ名とグループの人

1年 組 グループ

役割	生徒番号	氏名
責任者		
記録者		

II 検討の基準

- 1
- 2
- 3

- 4
- 5
- 6

III 検討した作文の批評・感想

作品番号	本文で気付いた点	全体の感想

IV グループ作業をしたことに対するグループ全員の一行反省

氏名	

四 作業実態とその分析

(1) 題材

題材としては次のようなことを取りあげていた。

- 1 クラブ活動について (16名)
 - 2 高校生活全般について (10名)
 - 3 友人について (8名)
 - 4 清掃活動等校内美化の問題について (6名)
 - 5 生徒会行事について (6名)
 - 6 学校規則について (6名)
 - 7 試験について (5名)
 - 8 通学方法について (4名)
 - 9 目標・生きがいについて (4名)
 - 10 時間の使い方について (3名)
 - 11 家庭学習について (3名)
 - 12 授業について (3名)
 - 13 苦手の科目について (2名)
 - 14 先生と生徒のつながりについて (2名)
 - 15 高校生の自殺について (2名)
 - 16 その他 (5名)
- クラブ活動について書いた者が多かったがそのほとんどは、練習の厳しい運動クラブに属している者である。クラブ活動と勉強とがなかなか両立できない悩みを訴えていた。
- 高校生にとって良き友人を得ることは大きな関心事のようだ。表

面的なつき合いでなく、内面へ深く入りこめるつき合いを望んでいる。作文では、友人関係の理想のあり方を探っていた。

誠之館高校では、生徒会行事が多い。その中で特に記念祭での感動を綴ったり、毎月一回はある校内総体のあり方を述べたりしている。

服装の乱れや、そうじの不徹底については、五十四年度、教師の側でかなりやかましく言ってきた。生徒の中にも、それらの問題を前向きにとらえ、服装等に恰好をつけることの愚かさを説く者や、ごみが散らかっている校内の様子を嘆く者、そうじをさぼるといふ無責任な行動を批判する者などがいた。また学校が示す服装の基準のあいまいさを指摘し、学校の姿勢を批判する文章もあった。

以上、多くの生徒が取りあげていた題材の内容を簡単に述べたが、その他の題材についても、それぞれ、自分や自分のまわりをよく見つめて書いている。高校一年も二学期になると、高校生活についての問題意識をかなり持てるようになってきているものだと感じられた。

(2) 検討の基準

グループでの話し合いは、まず検討の基準を決めることから始まった。基準は三つ以上、六つ以下である。

作文を書く上での基本的なことには、やはりほとんどの班がふれている。原稿用紙の使い方は正しいか。(8)。句読点や符号の使い方はどうか。(5)。誤字、脱字はないか。(11)。常体と敬体を混同していないか。(7) などである。その他を項目に分けて挙げる

主題に関しては、。主題がはっきりつかめるか。(5)。中心がわかるか。(2)。中核がまともまっているか。(1)

構成については、。全体の構成がしっかりしているか。(3)。段落の構成(5)。段落はまともまっているか。(1)

題については、。題はどうか。(3)。題と本文が一致しているか。(2)

意見の述べ方については、。主張がはっきりしているか。(4)。自分の意見が積極的に述べられているか。(1)。書きたいと思っただことが充分にあらわされているか。(1)

表現については、。わかりやすいか。(1)。文脈のねじれ。(1)

正しい文法が使われているか。(1)。意味が通らない部分があるか。(1)。だれにでも理解できる文章であるか。(1)

。各部分の表現が生き生きとしているか。(1)

その他には、。内容のつながりはどうか。(1)。興味をひく作文であるか。(1)。事実と自分の主張がわけられているか。(1)などがあった。

(イ) 作文例、検討例

四名の生徒の例を示す。

A

私の生活、改善

女 検討したグループ I

私の今の生活：ぐーたらしてるな！。はり合ってもがない。学校から帰って、テレビ見て、勉強して：もう一日が終わる。こんな毎日では本当におもしろくない。

クラブやってた頃の私。なんか毎日はりきってたみたいだ。親が止めるのも聞かずにクラブに入って、そしてとうとう体をこわしてしまった。

運動部とは縁が切れた今、放課後のグラウンドや体育館でクラブをやっている人がうらやましい。それと同時に自分の体の弱さに腹が立ってくる。

だけど、今、こんなことを悔やんで何になるんだ。自分の生活をもう一度見直せばいいじゃないか。クラブに入らなくても、何かできる。毎日、何か継続的にできるものを、見つけよう。そしたら、私の生活も良くなってくるような気がする。

さあ、がんばるぞ。

本文で気付いた点

。常体だけで書かれてあるのが、自分の気持ちを表現するのに効果的だと思う。

。題に「改善」とあるので今後の改善を具体的にもう少し書いてみてはどうか。

。筆者の気持ちがよくかかっていると思う。

検討の観点

。題と内容を照らしあわせてみた。

全体の感想

。筆者の言いたいことがよくわかった。

。よくまとまっていて読む人にわかりやすく書いた人の気持ちがよく伝わってきた。

。気持ちが大へんよくわかる。内容にひきこまれそうだ。

清書

私の今の生活：ぐーたらしてるなー。はり合いつてものがない。学校から帰って、テレビ見て、勉強して：もう一日が終わる。こんな毎日では本当におもしろくない。

クラブやっていた頃の私。なんか毎日はりきってたみたいだ。親が止めるのも聞かずに入部して、そしてとうとう体をこわしてしまった。

運動部とは縁が切れた今、放課後のグラウンドや体育館でクラブをやっている人がうらやましい。それと同時に自分の体の弱さに腹が立ってくる。

だけど、今、こんな事を悩んで何になるんだ。生活をもう一度見直せばいいじゃないか。何か継続的にできるもの。朝少し早起きして運動ができる。放課後は図書館で読書とか、それとも早く家へ帰って趣味をいかすとか。少しだけでもいい、何かやれば。したら、生活が少しずつ改善されていくような気がする。さあ、がんばろぞ。

この生徒の場合、基本的な点では問題ない。ただI班が指摘しているように、今後の改善が具体的に書かれていないため、少々説得力に欠けている。この生徒は清書するにあたって、四段落で今後の改善策を具体的に示した。他人の忠告を素直に受け、成功している例である。

B

高校での清掃活動

女 検討したグループ H

現在、私達の学校でもいえることだけど、清掃活動が、私達生徒の中で徹底されていないように思われます。

清掃時間は、HRの後になっているが、決められた場所に来ない人、来てもぼさーとしている人。みんなであれば早くおわるような所でも、大変に時間がかかるものです。

掃除をしている方も、いい感じではないでしょう。そして最近、問題になっているジュースのバックの後しまつ。

逆に乱す者さえ出てきているのが現状です。そしてジュース販売禁止にまでなろうとしています。そうすると生徒全員がこまるのです。一部の人のために、みんなが迷惑を受けることになります。このような実態になっている現在、もう一度、私達みんなが、校舎内の美化というものを考え直すべきだと思います。みんなが、共に学んでいるみんなの学校を、みんなで、守っていくことが、理想的でありまた、あたりまえのことなのかもしれません。

本文で気付いた点

。段落を一ますあけていない。

。10行目の「後しまつ」というところは「。」よりも「……」の方がよいようなかんじ。

。5行目から6行目にかけての「……としている人。」という文の終わり方は、この文の前後とつり合わない。

例として、

「……としている人がいる。」という様にした方がよいと思う。
。十五行目の「このような」のところは、段落を変えた方がいいと思う。

。だいたいまとまっている。
検討の観点

。文章の内容はどうか。

。文章の書き方はどうか。

。中心はわかるか。

全体の感想

。学校での問題について自分の意見をよく述べている。

。文の終わり方・段落のかわり目に気をつけたらもっとすばらしい文ができたと思う。

。清掃の問題はいろいろあるができるだけ守ればいいのに……。

清書

現在、私達の学校では、清掃活動が、私達生徒の中で徹底されていません。

清掃時間は、H.Rの後になっていますが、決められた場所に来ない人や、来てもぼさざとしていている人がいるのが、現状なのです。

みんなであれば早くおわる所でも、大変に時間が、かかるものです。

また、最近、問題になっているジュースのバックの後しま

つ……。

逆に乱す者さえ出てきているということです。そしてジュース販売禁止にまでなろうとしています。一部の一人のためにみんなが、迷惑を受けることになります。

このような実態になっている現在、もう一度、生徒全員が、校舎内の清掃活動、すなわち美化ということについて考え直すべきだと思うのです。

共に、みんなが学んでいる学校を、みんなで、守っていくことが、理想的であり、今後私達の大きな課題であるかもしれませぬ。

夏休みの課題として読書感想文を書かせた時、この生徒の行の分け方は気になっていた。三〜四行書いては行を変え、はじめのマスをあけていないのである。内容面では深さのあったものだけに、構成のまずさが残念であった。返すとき、その注意をしたのだが、二学期になって書かせた文章でも、直っていないところを見ると、よほどくせになっているらしい。

Hグループの指摘によって、段落分けはよくなった。しかし5行目「現状なのです。」9行目「後しまつ……。」のあとのマスを残しているところなど、まだ完全ではない。習慣化してしまったことは、何度も注意を与えなければ、なかなか直らないようだ。

クラブ活動について

高校にはいってから

今、私はクラブ活動はしていない。だからなんとなく、気がぬけた毎日だ。

を

中学校の時、私はいつも真面目に、クラブに出ていた。それはやはり、自分が好きなことをしていたから。

だと思ふ、教室、クラス内、そっちに夢中になり忘れることができた

い事があっても、クラブに出れば、すぐ忘れられた。暑くても、寒くても、耐えられた。先輩や友達は、きびしかったけれど、お互い、信頼できた。クラブを通じての友情は、本当のものだと

思った。お互い、同じ目的、同じ悩みを持っていたのだから。

そして、高校に入學して半年たった現在、私は、クラブ活動をして

いる人が、うらやましくてたまらない。私にはもう、続ける気持ちはないけれど、終り方が適当でないようです。だけど、を書くとき次につづきそうよ。

とは思う

高校生活において、勉強は一番大切だ。しかし、一に勉強、二に勉強、というより、二番目に、クラブ活動をいれてもらいたい、という気がする。

と

何故そんな気がするのかそれがこの作文の最大の目的というか中心ではないでしょうか？

敬体と常体の使い方が正しい。

句読点の使い方

誤字・言葉の使い方

検討の観点

女

検討したグループ F

本文で気付いた点

こういう事に対して自分の一番今クラブ活動に対しての意義というものを考えたという意味だと思ふがそのクラブの活動について自分の気持ちを率直に述べなければすく自分の気持ちがはっきり示されていないようだよ。

。内容の中心がつかめるか

。段落の分け方

全体の感想

。クラブ活動についての何を言いたいかもつとうったえるものがほしいな

清書

高校にはいつから、私はクラブ活動をしていない。だからなんとなく、気がぬけたような毎日だ。

中学校の時、私はいつも真面目に、クラブに出ていた。それはやはり、自分の好きなことをしていたからだと思う。クラス内でもおもしろくない事があっても、クラブに出れば、そっちに夢中になり、すぐに忘れられた。先輩や友達は、きびしかったけれど、それだけ信頼しあえた。クラブを通じての友情は、本当のものだと思つた。お互い、同じ目的、同じ悩みを持っていたのだから。

そして、高校に入學して半年たった現在、私は、クラブ活動をしている人が、うらやましくてたまらない。しかし、私にはもう、クラブ活動をするだけの元気はないのだけどー

高校生にとって、勉強が一番大切だと思う。しかし、一に勉強、二に勉強、というより、二番目に、クラブ活動をあげてほしいと思うのだ。

Fグループは、この文章の難点によく気付いている。簡潔でわかりやすい文章だが平板なのだ。14行目「私にはもう、続ける気持は

ないのだけれど」は、Fグループが言うように、なぜそんな気持ちになるのかを述べなければ、読む者に響いて来ない。清書では「気持」を「元気」に直していたが、Fグループに読ませると、また「なぜ元気がないのか」と言いそうだ。

語法上の難点はすぐ直せるにしても、こういった内容上のことを変えるのは難しい。目頃から自分の心と格闘し、つきつめて考えていくようにしてないと、深い文章は書けないものである。四百字という制限があるから、深めにくかった面もあるだろうか。

D

現代社会の中の高校生 男 検討したグループ F

最近

近ごろ多くかんじおこっている社会問題として青少年の自殺、

受験地獄、青少年の不良化といったいろいろなものがある。こ

うした問題の発生の原因、またそれを僕達はどうか防ぐかを僕は

現代社会の中で高校生はどんなものかという点に目をつけて

考えてみた。

一言でいって高校生というものは、社会の中の位置はまだ

まだ上の方ではない。また社会との関係もさほど重要な関係に

あるわけではない。しかし、かといって全く社会から無視され

ているというわけでもない。それは僕達高校生には未来という

現代社会には無に染しいものがあるからだ。つまり社会は僕達

の未来性に大きな期待を持っているのだ。

の誤りは、ほぼ訂正された。段落分けについても、例にあげたBの生徒のみならず、随分整理されていた。書き直すにあたって、一番難しいことは主題に関することのようにだ。いったん書いたものを大幅に変えることは、どの生徒もしていなかった。

(二) グループ学習についての反省

グループ作業をしたことについての一行反省には約三分の二が「いろんな人の意見が聞けてよかった。」「いろんな人の文章を読んで勉強になった。」と書いている。一―三のグループは作業がはかどらなくて、そのグループのメンバーは、協力が足りなかったことを反省したり、私語があって作業が進まなかったことを反省したりしていた。その他には「人の作文を評価することは難しい。」「一方的な目で作品をみたことがあった。」「自分の独断と偏見で決めてしまった点をおわびしたい。」「少しきついことを書いてしまった。」「作文の悪い所がよく目につきすぎた。」などがあった。

五 反省と課題

1 グループ学習のあり方

どの程度批評ができるか、不安であったが、いざ始めてみると、生徒はいい着眼点を持って作業を進めていた。ただグループ学習をするといつもあることだが、二―三、ただだからとして作業をてきぱきと進めないグループができてしまう。リーダーシップの取れる者がいなくなったり、何事にもやる気のないものがたまたま重なりやすくなる傾向が、必要だと思った。しかし、クラスで数名ぐらいの

生徒は、ひとすじなわけはいかない面を持っている。

グループによる差をなくすために、例えば検討の基準を決める際、全体で話し合う場を持つてもよかった。

2 書くことの注意点の定着

このたびの作業では、清書をした段階で、誤字、脱字、語法上の誤りは直った。その後、別の教材で書かせたものについては、やはり誤字等が目立つ。書くことの基本が身につくには、時間がかかると思った。書く機会を多く持って、見つけたらすぐ注意するよう心がけたい。根気のいることだと思ふ。

3 文章の深まり

それぞれの作文を読みながら、生徒はいろんな点に問題意識を持っているのだと感心した。ただ、その問題意識が、読む者の心に響いて来ないものもだいぶんあった。文章にはその人間の生活が現われる。不断の生活を深めるよう、機会をとらえて教えていかなければと思った。軽薄さの目立つところであるだけに、このことにもかなりの根気がいる。

六 おわりに

五十五年度、二年生の現代国語の授業を二クラス受け持つことになった。一年生の時から連続して受け持つ生徒は十名程度である。

筑摩書房「現代国語2訂版」にも単元「文章を書く」がある。二年生では客観的に自己を見つめることを目標にし、より本格的な作文を書かせようと思っている。

(広島県立福山誠之館高等学校教諭)